

度を持つに至つたのではないか。内地商業にして、その座并びに市に對して之を保護し、歓迎し交通の利便を期待したのは、不知不識の間に時勢に左右せられて、重商主義の色彩を濃厚にしたものではあるまいか。一面その所有地、畿内及北國の庄園は武力を利用して、之が收益を完うせんこ

とを企圖したけれども、その武人は恰も脂膏に移植される蛆卵の如く何時の間にか彼等はその肉片を蠶食して肥大なる成虫となり終へた。庄園崩壊は斯して尋尊の時代には充分その破綻を表したのである。階級闘争の時代は、亦同時に經濟上の大なる變革時代であつた。（二三、八）

歐米の古文書館（中の二）

文學博士 三 浦 周 行

五 古文書の保存（續）

是等の古文書館には大抵最も古い金石文を始めとして紙草から作られた Papyrus 羊皮紙 Parchment より現今の紙に至る迄各種の材料で作られた新古雜多の古文書を藏して居るから其形狀も

もどより大小區々であつて、羊皮紙の公文書の卷物 Roll の如きは、展觀の爲めに數人の手を要する程すばらしく大きいのがあるかと思へば、又二三四方の極めて小さいのもあり、加之羊皮紙の古文書に出張つた S.E. の附着して居るものも少からぬから、取扱上頗る厄介と謂はねばならぬ。

古文書館の館員が是等各種の古文書を整理し保存するについては細心なる用意と特殊の智識とを要すること、圖書取扱者としての圖書館員の場合と略同様である。而かも古文書には其名稱がなかつたり、文字が讀めなかつたり、年代が解らなかつたりするものが有勝であるから、夫等に相當の文書名を附し、文字を讀み解き、年代を決定若しくは推定し乍ら更に其持前の特質に依つて古文書學的にそれ〴〵分類を施し、又適宜保存の方法を講ずるには専門學の智識以外に又圖書館とは格別な

一種の古文書館管理法に據るべきである。歐米では古文書館は中央と地方とを問はず、到る處に少らず設立されて居る上に、圖書館、博物館其他の古文書を蒐集保存して居るところも多いのであるから、此特殊の智識の必要が痛切に感じられて居る。大學では古文字學や古文書學の講義が設けられて居るとはいへ、それらは主として研究科學生

の爲めの進んだ講義であつて、私の知つて居る限りでは聽講學生は極めて少く中には志望學生のない爲めに休講中のものもあるを例として居る。加之大學では何處でも古文書館の管理法杯は教へては居ない。而かも古文書館に於ける古文書の管理は頗る重要且つ至難の事業であつて古文書分類法は常に歐米の史學者間の問題となり、古文書管理上専門的智識や經驗は非常に重要視されつゝあるの状態である。

此需用に應ずる爲めの特殊な教育機關として、私はバリはソルボンヌの *École Nationale des Chartes* を世界の學界を道して殆ど唯一の誇として推賞するに吝かならぬ。抑此學校の淵源は古文字學や古文書學を専攻する學生を養成したバリの *Saint-Germain des Près* の僧院にあるとはいはるゝが、此學校の創設は實に *Gerard's* 男爵の熱心な

運動の結果であつた。男は千八百年の初、文部次官の職にあつた頃から、此種の教育機關の必要を提唱しつゝあつたけれども、Napoleon が斯る系統の學問を好まなかつた爲めに、其計畫は遂に不成功に終つたが、それにも屈しないで、男は其後更に時の内務大臣 Simon 伯に勸めて、千八百二十一年の勅令の下に始めて *École des Chartes* の創立を見るに至つた。初めは *Académie des Inscriptions et Belles-Lettres* の監督の下に置かれてあつた爲めに *Académie* が二年後に廢校となつた結果一頓挫を來したものの、其後千八百二十九年の勅令に依つて復興された。それに據ると、學年は三年であつて、學生の定員は八人以内に限られ、別に若干の聽講生が許された。此學校が設立されてから佛蘭西各縣の知事より古文書管理者の要求が學校へ殺到した程であつて、卒業後の地位は或程度保障されて居たのみならず、卒業生の成績は非常に良好

で、中には古文書集の編纂に拔群の業績を擧げるもあれば、又種々の研究にアカデミーの賞を受けたものも頗る多く、佛蘭西の政治史の面目を一新した學者や私法史に貢獻した學者、知名の歴史家、外交史家、言語學者、古文書學者等が頻りに輩出した。彼佛蘭西中世史の研究に多大の寄與をなしつゝある季刊雜誌 *Bibliothèque de l'École des Chartes* は千八百三十九年に此學校の同窓會から發刊されて今日に至つて居る。

されば此學校は世間多數の注意を喚起し、殊に下院に於て其擴張が熱心に主張された爲めに、千八百四十六年の法令に依つて大擴張が行はれ、夫迄は一部は *Archives* で一部は *Bibliothèque Nationale* で行はれて居た授業を全部 *Soubise* 公の舊第であつた今の *Archives* で行ふこととなり、加之附屬の圖書館は完備し、各種の摸寫本も備附けられ、講義課目も教員も共に充實されたから、爾

來學界に功績ある學者のこゝから出たものも數ふる違のない程である。疊舎が現今のソルボンヌ大學附近 (19 rue de la Sorbonne) に移つたのは、千八百九十八年の事であつて、それが爲めに文科大學と密接の關係を保つことが出來たのは此學校に取つての重要な一變革であつた。

私がパリに滞在中は前後二回其學校は暑中休暇の爲め閉鎖中であつて、此特殊な教育機關の授業を參觀する機會を得なかつたのはかへすくも遺憾であるが、幸ひに此學校と特別の縁故ある Archives Nationales の館長 Langlois 教授に就いて親しく同校の内容を質し、猶ほソルボンヌの Journal 教授から贈られた千九百十八年版の La Vie Universitaire A Paris に見える Pron 校長の手に成つた同校の記事や、同校の創立百年の記念出版 (Livre du Centenaire) 其他二三の大學關係の出版物等から略同校の現況を窺ふことが出來た。

私のパリに居た當時の學年即ち千九百廿一年から同じく二十二年へかけての同校の時間表に據ると此學年の講義は千九百廿一年十一月三日から開始されたのであつて、(何れの學年も同様であるらしいが) 第一學年では古文字學が毎週二十時間ローマン言語學が二十時間、書史と圖書館使用法とが二時間、第二學年では佛蘭西國史の史料が一時間半、古文書館使用法が二時間、古文書學が廿時間、佛蘭西の政治行政司法制度史が十八時間、第三學年では佛蘭西國の史料が十時間半、民法及び寺院法史が五時間、中古考古學が五時間となつて居た。此時間割を見ても察せらるゝ如く此學校の目的は單なる古文書館員や圖書館員たるべきものに向つて職業的教育を施すばかりでなく、佛蘭西の國史に通曉する歴史家をも養成しやうとするものである。先づ書史の講義では學生をして刊行の圖書(出版された古文書集も)及び圖書館の使用法

に通せしむる目的であつて、第一、歴史研究に關して是等のあらゆる重要な史料及び一般研究の解説、第二、古來の圖書の歴史、第三、圖書館使用法との三段に分たれ、且つ其實地練習が附加される。次に古文字學の講義は古文書を正當に讀み解くと共に其眞贋を鑑別する事を教へる。英吉利の古文書がアングロサクソンや羅甸で書かれる如く、佛蘭西の古文書も古くは羅甸から上代の佛蘭西の民間語で書かれて居る。ローマン言語學の講義は即ち是等の各地方語について教へるものであつて、佛蘭西の古文書研究に取つて重要なこと言ふ迄もない。古文字學の講義は公私の古文書を通じて其性質を調査し眞偽を研究し記載の年代に誤はないか、編纂者の目的は那邊にあつたか杯といふ事を教へ、古文字學とも學生一人一人に古文書の摸寫本を渡して讀ませるのであるが、時には故らに偽文書を示して、學生に口頭又は答案を批

評させる。佛蘭西國史の史料の講義に於ては、學生をして佛蘭西の圖書は勿論、諸外國殊に英吉利圖書で歴史的事實の原因經過頭末等を知るに必要なもの、目錄を調査させそれらを時代に依り、版に依り、地方に依り、又人物に依つて、種々の分類を試みさせること杯を目的とする。佛蘭西の政治行政及び司法制度史の講義では、*Queen* 時代から *Napoleon* 時代迄を四期に分つて説明するのであつて、民法及び寺院法史と共に必要缺くべからざる講義の一つである。又考古學の講義は古文書として紙や羊皮紙に書かれたもの、外に、研究の必要ある碑文其他僧院の建築、寺院の莊嚴、墳墓、服裝等の説明をするのである。それが爲めには學校は講義以外に、學生をして一々實地の研究をさせる爲め、屢バリを出で、可なり遠方に迄も修學旅行を行ふことがある。

入學資格は佛蘭西人に限られ、年齢は三十歳以

内で、バカロレアの學位を有して居ることを必要とし、二十人を限つて許可する。尤も外國人でも佛蘭西のバカロレアの證書を有つて居るものは入學試験に加はることを許され、合格者は外國人身分の學生として入學を許される。毎年十月の二十日から二十五日迄の間に學校の祕書が入學願書を受附け、一定の日に競争試験を行ふ。試験科目は羅匈語、佛蘭西國史、佛蘭西の歴史地理及び現代語である。別に自由聽講生を許すがそれには何の規定もなく、只學校の祕書の許に行つて署名すればよい。此學校の圖書館には約四萬冊を藏して居つて、教授、學生、卒業生に限つて閱覽を許される。學校は授業料を徴收しない。三年の課程を終へて後更に *archiviste paléographe* の ディプロマ 免狀を受けやうとするものには論文を提出させる。

處が私の親しく *Lancelotti* 氏から聞いたところによると學年初には二十人位入學するけれども、

試験が非常にむづかしい爲めに、入學後多くの不合格者を出して三年の終に卒業するものはせいぜい八人か五人位のものであるとの事であつた。ラ氏は猶ほ此學校では別段普通の大學と變つた設備のある譯ではないが、只大學では一般の歴史を學術的に教へるけれども、こゝでは古文書の取扱方を主として教へるのであるといはれた。Prou 校長はこゝの講義は演繹的であつて、全部概論を講じて個々の特別研究は行はないと書いて居るが、ラ氏は又これに對して、こゝでも追々には一般的な講義を止めて、専門的にする積りであると話された。彼は思ひ合せると、設備は兎も角、内容に於ては確かに大學の歴史教授に比して一段の異彩を放つものであることが解らう。ラ氏は *Seignobos* 教授と合著の *Introduction aux études historiques* の附録第二佛蘭西に於ける歴史の高等教育の項に於ても、此學校の事に言及されて、本來古文書館

員及び圖書館員を養成する目的を以て設立された此學校も、斯様な職業的教育は早く其最少限度迄縮少されて中世の佛蘭西國史を專攻せんとする少

壯學生に完全な教養を授けるやうに編制された、學生は別段中世史の課程を履んだ譯ではないけれども、而かも中世史の未決問題の解決をなすに必要なあらゆるものを學修し、自然に史學研究に取つて豫備的補助的な科目を組織的に教へられる事になつたと言はれて居る。斯様にして學科の性質上、此學校はより多く佛蘭西中世史の專攻者に惠まるゝ結果を生じたのであらう。

ラ氏は又私に向つてこの卒業生は餘裕のあるものは歴史家にも外交官にもなるが、一般に古文書館員圖書館員になるものが多い、今年(千九百二十二年)は法律が改正されて、この卒業生は古文書館に採用優遇さるゝことゝなつた、試験が厳しくて卒業生が少い丈に成績はよい方であると

語られたが、それは選りに選られた俊秀の學徒として當然の話であると思はれた。

私はかねて佛蘭西の學士院 (*l'Institut de France*) の會員中に *École des Chartes* 閥のあるといふことを耳にして異様の感があつたが、其後此學校の *Livre du Centenaire* を見て、此學校が創立以來既に百餘年の歴史を有し、其間多數の知名の學者や教育家等が輩出して嘗ては此學校の學生であつた人で *Académie des inscriptions et belles-lettres*, *Académie des beaux-arts* の會員の少からぬことを知るに及んで其偶然でないことに想到した。現にラ氏も亦實に此學校の出身であつて *Académie des inscriptions et belles-lettres* の *Membres* の一人である。私の面談したパリ大學法科の寺院法の専門家なる *Fournier* 老教授も亦この出身で矢張り同じアカデミーの會員である。

私は佛蘭西の國史の研究上最も重要なる補助學科について斯くも有力なる教育機關の存在するを見て健羨に堪へなかつた。英米では未だこれに匹敵すべき何物をも有たぬやうであるが、獨逸ライプチヒ大學の Lamprecht 教授の後任者たる Goetz 教授に據ると、奧太利ウキーンに Institut für österreichische Geschichtsforschung があつて、正しくバリの Ecole des Chartes に相當するやうである。教授は Für Sondergebiete hat das Ausland längst das Vorbild gewiesen: かつて兩者を列擧され、其史學の補助學科の領土に對する業績の顯著なるを認め乍ら、而も一般に其模倣をなさなかつた獨逸に於て唯一つマルブルグの Archivschule があつたが、それすら間もなく廢校となつて、今では獨逸人はウキーンの前記の Institut に入學を許さるゝことになつて居ると説かれ猶ほ此 Institut の近況については Während sich das Wiener

Institut mit der Zeit in seinen Stipendiaten eine als vorzüglich anerkannte Ausbildung zuteil werden lässt, 彼の簡單な説明を與へられて居る。私は此 Institut について今のところ、これ以上の智識を有たぬのであるから Ecole des Chartes と比較して其の異同優劣を商量する程の勇氣はないが、兩者共長い歴史を有し、史學の補助學科の開拓に向つて同様の業績を擧げつゝあるものと察せらる。教授は斯る補助學的の教育が史學に取つて單に限られた範圍内にのみ役立つ意味に於ける生産過剩 (Überproduction) の弊を指摘されて居つて、暗に獨逸が外國のかゝる手本を學ばぬ賢明なる處置を辯護されて居るかに見受けらるゝが、此の弊は試験を嚴格にして卒業生を少くすることに依つて適當に調節されて行くこと Ecole des Chartes の場合がこれを立證して居る。而かも在學生には授業料を免除し、卒業後の地位にも保障を與へて、

長年月の間に濟々たる多士を養成した偉績は決して埋没さるべきではないから、遺の教授も前に引いた文の直後に、*entbehrt das Deutsche Reich bisher jeder Einrichtung, in der sich die Begabtesten des wissenschaftlichen Nachwuchses frei von äusseren Sorgen weiter ausbilden könnten.* かつて、獨逸が最も優秀な學生にすらも後顧の患を絶つて自由の研究に没頭させるやうな制度に缺けて居ることを深く遺憾として居る (*Archiv für Kulturgeschichte*. XII.)

勿論歐米に於ける古文書館員のすべてが斯る特殊の専門教育を受けた人であることは望まれぬ。併し古文書館の館長の地位にある程の人は何れも古文書に關する造詣の深い人々のやうである。現にソリの *Archives Nationales* の *Langlois* 教授の如きは斯界の一大權威であつて、其著述の多い

中に、古文書に關するものには *Seignobos* 氏の共著に *Les Archives de l'Histoire de France* がある。又一般史學研究法の著書にも、我史學の學生間によく知られて居る *Dr. Bernheim* の *Lehrbuch der historischen Methode* かつて稱せらるゝ *Seignobos* 教授の共著 *Introduction aux études historiques* がある。専ら初學者の爲めに書かれたものではあるが流石に老大家の筆丈あつて、頗る有益なる參考書である。本書は既に露希英の諸國語に翻譯されて居つて日本にも其抄譯がある。私が始めてラ氏を *Archives Nationales* に訪うた時談本書の事に及ぶと氏は是等の譯書の中には氏に無斷で公刊されたものもあるといつて笑はれ、日本でも全部紹介して貰へば幸であると語られた。又ハーグの *Rijks-Archief* の館長 *Fruin* 教授にも *Muller*, *Feild* 兩氏の合著の *Handleiding voor het ordenen en beschrijven van archieven* があつて、これ

亦斯學界に重きをなして居る。従つて館員も其指導誘掖の下に、研究と經驗とを重ねて、それ／＼相當の業績を擧ぐる事が出来るのであらう。Public Record office で私のよく御世話になつた Junkinon 氏の如きも其一人であつて、忙しい本務の傍ら、ロンドン大學及びケムブリッヂ大學の古文書學講義を擔當し、私の知つて居る限でも、A manual of Archive administration や私の前にも述べた Johnson 氏との合著の English Court Hand や同氏が Bibliographical Society の席上で朗讀された Elizabethan handwritings 杯があつて英國に於ける現代の新進古文書學者として斯界に認められて居る。

古文書館の書庫を觀覽した人は、そこに普通の圖書館のやうに、表紙の附いた本が數多く架上に立てかけられて居たり、又箱入のものゝ積み重ね

られて居るのを見出だすであらう。前者は多くの場合羊皮紙 (Seal) のないものや紙を使用した關係文書を表装し若しくは無表装の儘貼込み又は綴込んで製本したものであつて、後者は同じく一枚か數枚のものを其儘重ねたものである。若しもそれに二つ以上の違つた事件に關するものを收めてあるならば各其包紙を別にして、それ／＼の件名を題する。此箱は一つは保存上一と纏めにして散佚を防ぐ爲めであるが、一つは塵埃を避ける爲めでもあるから、大抵被蓋カフセツクを使用する。冊を成した古文書を書架に立てた上部に塵埃のたまるのを防ぐ爲めには、硝子戸内の書架に置いて、其上部を掩へる丈の皮を張る方法が用ゐられる。併し羊皮紙を用ゐた古文書は保存上頗る厄介視される場合が多い。一番よい方法は平たく廣げて置く事であるけれども、それには可成りの場所を取る爲めに數多くの羊皮紙の文書を悉く同様に取扱ふのは事

情の許さぬところである。さればといつて折込めば、如何様にも小さくはなるが、其折目から損じて行く。別して Seal の附いて居るものに至つては其破損を防ぐに特別の注意を要するのである。されば此種の文書は昔からよく幾重にも折込んで保存されて居る習はしであるけれども、古文書館では成るべくもとの折目に頓着なく平たく廣げて保存しやうとし、圖抜けて大きい文書であつても、一つか二つか、出來得る丈少く折ることにする。P. 20 も亦保存上頗る難物であつて、始終巻いても、又巻かなくても、共に損害は免れない。披いた儘表装しては面積を取るから、寧ろ原本より稍大きい羊皮紙又は硬布製のカバーをあてがひそれらを厚紙製の箱に纏めるが最もよく木や厚紙の心棒を入れるも、塵埃の侵入を防ぐに有效だといはれて居る。何れにしても關係文書の中に斯様な文書が交つて居た場合には、同一部門に屬する一件書類

の中から、目録には一所に出で、居るものをそれ丈架上より引抜いて他の適當の場所に別置するを例として居る。これは圖書の場合と同じく檢閲上不便の事ではあるが、排列の便宜として餘儀ない譯であつて、此場合、古文書館では其關係文書の置かれて居る室なり書架なりに大きな厚紙製の下げ札又はカードを懸けてそこに架藏さるゝ古文書の部門番號所在を明示することを怠らないのであつて、ロンドンの Public Record office 等皆さうした設備を見かけた。又 Seal のある文書は貴重な Seal であれば、別に一つの箱に納めて保存するが、夫程でもないものは、お互に搗合つて缺け杯せぬやう、別々に紙に包んで一つの箱に入れて置けば充分である、綿杯で Seal を包むよりも却つて露出して置いた方が破損の憂が少いやうだといはれて居る。もとより實驗上から出た説であらうけれども、常識的に考へて寧ろ意外の感があらう。

古文書の保存上最も頭を悩まさるゝことは蠹魚の害を避ける事であつて、曝涼や樟腦ナフタリンの使用等の諸方法は或程度迄これを避け得るにしても、決して絶對安心は求められぬ。現に私の渡歐間際にも、私は偶然自己の主管して居る古文書室に於てボール紙箱に収めた古文書の虫害に脅かされた事實があつたので、歐米に於ける古文書館圖書館等では、必ずや多年の經驗及び種々の科學的應用に依つて徹底的驅除の方法が講せられて居るのであらうと、私は此點にも多大の收獲を豫期して出懸けたものである。歐米に行つて是等の管理者と面談する度毎に、此話を持ちかけて見るとこれは又意外にも彼等は虫害を知らず、従つて其豫防法等について何等の智識をも有たない。私は今しがた書庫で架藏の古い Papyrus に確かに蠹蝕の跡を見かけ又幾つかに折り疊まれたもののある文書を入れた箱に蟲除の入つて居たのを見受けた

といへば、それは遠の昔埃及あたりにあつた頃の出來事で、勿論本館へ来る餘程以前の事だと濟ましたものである。併し私は左迄古くない蠹に喰はれた紙の古文書を見もし、持つて歸つても居るから、絶對に其害がないとはいはさぬが、縦し稀れにあつたとしても殆ど問題とする程でないことは明らかである。これには私は非常に羨しく思つたと共に少からず失望させられたものであるが、東西の間此相違を來した原因はもとより單純ではなからう。私の此事について質した諸家の中で、例へばワシトンの Library of Congress の館長 Putnam 氏は深く同情して蠹魚の害を避ける爲めに貴重な文書を綱鐵の箱に密封して保存するフィリッピンの實例を話され、此方法の實行には非常な費用のかゝることでもあり且つ果して貴國の場合に適當するや否やも測り難いと附加へられた。私は其後カリフォルニア大學の Bancroft Library を見

た時に、高さ約一間餘、横約一間、深さ一尺許で六段になつて居る箆筒様の書棚の全部網鐵で作られたのを見たが、これは全く珍本を保存する爲めで、蟲除けの爲めではなく、そこ丈は床も壁もコンクリートで固められてあつたのは防火設備に外ならぬ。又 Library of Congress の寫本部副長 Fitzpatrick 氏は貴國の事情はよく存せぬが、現に當方では表裝用の紙 (transparent paper) に貴國製のを使用して居るけれど、毫も蟲害のないのを見ると貴國の紙の質の一般に柔いこと、氣候の關係、糊の製法杯にも依らうか、試みに表裝用の糊に混する砒素の分量を多くして見られたならば、効果があるではあるまいか杯と親切に忠告して呉られた。私は其中に此糊の改良を試みたいと思つて居る。其事は猶ほ下にも説かう。

歐米の古文書館や圖書館に於ては、塵埃と共に濕氣を避けるといふことが、又館員の特に注意を

要することゝなつて居るが、一體に空氣が乾燥して居るから日本程の心配はなく、縦し濕氣はあつても、それが蠹魚の害を惹起す原因とならぬ事はロンドン、タワリーの如き濕氣の多いところですら蟲のつかぬのでも知れやう。私がロンドンの Parliamentary Record Office の書庫内に入つて觀た時、案内された Jenkinson 氏は我等は日常如何にして書庫内に充分空氣を流通さすかといふことに苦心して居ると話された。其時の事である。私は書庫内の Roll の上包や表紙、古文書綴込の外面が甚く塵埃に汚されて居るのを見て何等かの方法を執られぬかと聞いて見ると、氏は何分にも多數の事で、使用人の手の廻り兼ねるは遺憾であるご答へられた。氏は又今後年々に増加する文書の置場所も頭を惱す困難の問題であると語られた程で、尤の事と領れたが、遠にワシントンの Library of Congress の書庫の如きは新しくもあり、人手も多いかして

氣持よく見られた。

歐米の古文書館では何處でも絶えず損じ行く古文書の手當の必要を感せぬところは無い。此必要に應ずる爲めには、各古文書館共(圖書館、博物館等も同様であるが)館内に修繕及び製本室がある。

パリの Archives Nationales にも其設備のあることは Langlois 館長から聞いたけれども、私は遂にこれを見る機會を得なかつたが、ロンドンでは最初に Public Record Office を訪うた時、Jenkinson 氏に請うて、別室の修繕室に連れて行つて貰ひ、數人の職工の黙々として立働いて居る中を、實物について大略其順序方法を説明して貰つたのが手始めで、其後 British Museum では寫本部の副部长 Herbert 氏の案内で同部專屬の修繕室を見學し又同博物館の製本検査役 Gilman 氏に案内されて同館の製本室を視察した。亞米利加では又 Lind-

ry of Congress の寫本部の修繕室を同部副長 Fitzpatrick 氏の案内で、同圖書館の地下室にある製本室及び印刷局を館長 Putnam 氏の案内で各仔細に見學を遂げて、古文書の修補、表装、製本等に關する最新の方法に理解を有つ事が出来たのである。

是等の修繕や製本は古文書館に取つてなくてはならぬ副事業の隨一ではあるが、畢竟一種の技術であつて、其極致に至ると、科學を超越した熟練に依るの外説明し難い點もあること古今東西の共に一致するところである。それは彼 Ecole des Chartres であらう、私の Langlois 氏に聞いたところでは、斯る技術上の事は學生に授けることをしないで、すべて技術家に任されて居るといふことであつた。歐米共古文書學者や古文書館關係者の古文書の取扱方を書いた著書の中には修理の方法やそれに使用する藥劑の調合方迄書いて居るものもあるが、それらは大概不立文字の技術家からの聞書

であるから中には正直に此方劑がよいと聞いては居るものゝ、自身に試したことがないから、保證は出來ぬ杯と斷つて居るものも見受ける。私がよく大英博物館の Department of manuscripts へ通つて居た時の事である、Herbert 副部長から同部の修繕室に永年勤續の一老職工の話を聞かされたそれに據ると、彼れは多年の經驗に依つて、頗る修繕の技術に熟達して居つて、同部の仕事は一切任せきりであるが、併し氣に向かなければ出勤もせねば仕事もせぬといふ斯る職人に有勝な性格の持主であるとの事であつた。一度其仕事振を見たいとの私の申出に、ハ氏は快く引受けられたけれども、生憎其頃彼れは氣が向かなかつたか、少しも顔を見せぬので、ハ氏も氣の毒に思はれ、一日私を一間乍ら稍廣い修繕室に通して彼れの手がけて居るものを何呉れとなく示された。未だ着手せぬもの、手がけたばかりのもの、半出來のもの完

了したもの杯見て行く丈でも、其腕の冴を思浮べるに充分であつた。亞米利加には殆ど各州に Historical Society があつて、各地方の史料古文書遺物等を蒐集し、圖書館博物館をも備へたものがある。(此事については別に書かうと思ふ)私はつとめて沿道各地の同會を訪問したが、其中でも最も有力なボストンの Massachusetts Historical Society を訪うた時の事である。親切に案内された同會附屬の圖書館々長 Tuttle 氏と陳列室の古文書修繕の標本を示したところに立止まつて、修繕に關した談話を交して居ると、氏は同會の寫本の修補や製本を一手に引受けて居る若い一婦人の事を話され、彼女は眞に斯道の天才で、仕事が非常に早くて而かも巧いと褒めちぎられたから、私も各室の參觀を終つた後に、同女を手狹な製本室に尋ねて敬意を表した。氏は紹介の後、彼女の仕上げたものを彼此と取出して私に見せ、猶ほ出來上つた

ばかりの厚紙を折込んだ原本入を私へのお土産として差上げてはと言はれると、彼女はおと答へて内部の厚紙の合せ目へ紐を通す残りの仕事を素早く仕上げぬるなり私に手渡して呉れた。私が以前パリの Archives Nationale で分けて貰つた古文書箱とは又格別の製作であるが、皆相當調法なものである。

歐米共古文書館の陳列の室には、其一隅に、古文書の鼠に喰はれ、水に濡れ杯して、ひどいのは、化石のやうになつたものを、手を盡くして修繕して行く順序を實物で示して居るところがある。私はそれをロンドンの Public Record Office ワシントンへの Library of Congress ポストンの Massachusetts Historical Society の陳列室杯で見かけた。それには一つは觀覽者に向つて修理の方法を公開する意味も含まれて居ると察せられる。其最も著しい實例を私は Library of Congress で見た。私

は最初 Putnam 館長に逢つて話が古文書の修繕に及んだ時に、氏は同館の寫本部の副部長 Fitzpatrick 氏の書かれた Notes on the care, cataloguing, Calendaring and arranging of manuscripts と題する氣の利いた小冊子を贈られた。其中には修繕の注意も述べられて居るからである。氏は同時に又同書の中に記されて居る一二の材料をも贈られたが、中にも crepeline の如きは小さな紙を二つに折つた中に貼られて居つて、寫本の修繕に使用さるゝ材料に關して同館への照會に對する回答に代へる爲めタイプライターにした一枚の注意書に添へられて居る見本であつた。私はこれに依つて亞米利加式の開放的な一面の現れを如實に體驗すると同時に其範圍は狭いにもせよ、古文書館迄が相當社會教育に寄與しつゝあることを愉快に眺めた。

製本術は二三百年来同一であるといはれる程進歩改善の遅々たるものであるから、別段に取立て

言ふ程の事も無い様であるが、大體羊皮紙でも紙でも、第一着手として塵埃を拂ひ皺を伸して濕らせる。其方法は平たい淺盤に溫湯を入れた中へ古文書を入れて一時間程左右に動かすのである。尤も斯うすることは千八百年以前のものならば安全だけれども、それ以後はインキの質があやしいので危険だといはれて居る。淺盤から取出した古文書は布巾と吸取紙との間に挟んで三四十分して取出し、更に板紙で挟んで十時間許壓搾機にかけ、斯くて充分乾き切つて平たくなつたのを裏打するのであるが、裏打には昔から薄い羊皮紙や紙を使用する。此裏打は原本を折ることも巻くことも容易な薄くて伸縮自在な材料であることを要する上に、表ばかりか、裏にも文字の書かれてある古文書に對して裏にも表にも貼りつける場合には羊皮紙はもとより、紙でも決して充分とはいへぬ今より二十年少し前位から破損の甚い古文書類の

修繕には佛蘭西製の薄いモスリン (mouseline de soie) を使用することが行はれて居る。亞米利加でも以前は専ら薄い紙を使用したものであるが、今では下の文字が讀みにくい爲めによく絹が用ゐらるゝやうになつた。Library of Congress では *Cire peline* 又の商號を *Chiffon* (No. 6486) といつて居る絹糸に綿糸の混じたものを使用して居る。これは極めて薄く透明な織物であつて、薄紙に較ぶれば價は高いには高いけれども、下の文字がよく讀める上に永持がするから、若し長期の保存を望む場合はこれを使用することも必ずしも高くつくとはいへまい、畢竟は期間の問題であると同館の *Edmond Bonn* 氏が私に説明されたが、尤の事である。亞米利加でも矢張佛蘭西製のものが用ゐられて居るが、亞米利加製では主としてファイラデルフィアのものであつて、同國では何所の雜貨店にも賣つて居るさうである。

此修繕に取つては糊が唯一の材料であるから、其製法には可なりの注意が拂はれて居る。が要するに薄い麥粉の糊に少量の明礬を加へたものが最も粘着性に富んで居て宜しいといはれて居る。私の前に書いた Library of Congress で諸方面の照會に答へる爲めの注意書はもとより公開的のものであるから、無断乍らこゝに紹介することゝする。

orobaine 使用の糊の製法は上等の小麥粉を一杯、冷水を三杯、明礬粉を小匙に四分の一に、白朮素四グレーションを混じて溶かしたのを、二重鍋に入れて十分間煮て冷めた後上皮の張つたのを取り去つて程よくかきまぜる。

これが同館に於て古文書の修理上最善のものとして推奨されて居るのである。即ち修繕を要する古文書にはインキのにじまぬ爲めに、駱駝の毛の刷毛でうつつすらと件の糊を塗つて、クレベリンを貼りパラフィンを塗つた紙 (Paraffin paper) の間に入

れた儘、板紙に挟んで、十五分間壓搾機にかける。壓搾機を外すと共に、パラフィン紙を取除け、再び板紙に挟んで今度は乾く迄軽く壓搾するがよいといはれて居る。古文書の端は時代を経ると、よくぼろ／＼になるものであるが、これを修繕するには、其部分を適度に截取つて別の新しい紙をあてるを例とする。私が大英博物館の製本部を視察した時であつた。一人の職工が其新しい部分に礦物性の粉末を切れて塗つて、稍原本と見別け難い程の古色を附けて居るのを見て面白く感じたから、其粉末とそれを塗つた紙とを所望して申受けたが、同所の外では見たことがない。斯くて裏打したものはリンネルか白くて滑かな紙を臺紙として其上を糸で縫ひつけるか、蝶番でとめるのである。

最後に私は古文書の整理について述べたい。

古文書は所謂 respect des fonds の原則から、

本來一纏めになつて居るものは飽迄も其儘これを保存すべきであつて、夫等が全部に亙つて調査を遂げられ本來の關係が諒解さるゝ迄は整理の方法も極められない、従つて本來の冊なり綴込なり包なりも古文書の性質や整理の方針がよく解つて來且つ記録に留められる迄は決してそれをほごしてはならぬとされて居る。彼有名な古文書蒐集家 Sir Robert Cotton は此原則を破つた爲めに非難を免れないのである。斯くて同じ分類のものはそれぞれ一括して包紙に包み箱に入れ、又冊となして保存さるゝを例とするがバリの Archives Nationales の如き、議會の文書箱丈でも既に二萬七千からある程であつて、其全部の調査はもとより容易でないから、目錄の編成も勢ひ遅々たらざるを得ない。古文書館に架藏さるゝ古文書を見ると、原本にすらも、表の一隅に鉛筆若しくはペンで部門番號を記入したものが、小さい紙片にそれを印刷して貼布

したものが、(例へばバリの Archives Nationales の番號札に A. 143)とあるが如き)杯を見受ける。受入れの後には先づ急いで通し番號をつけて置いて、次に各種の分類に移るとは圖書の場合と同じ。私が Archives Nationales の目錄室を見學した時、カード箱の上に赤表紙の目錄大本七冊の載つて居るのを手に取つて見ると、千六百年迄の文書目錄であつて、一通毎に其内容が解説されて居つた。大英博物館の寫本部保管の蒐集目錄について見ても彼 Cotton MSS は千七百年に蒐集者の子孫に當る Sir John Cotton から寄贈されたものであつて、其目錄は古く千六百九十六年に出來たのもあるが、後別に千八百二年に完全のものが編成された。それに次いで古い H. Ley MSS は千七百五十三年に購入されたものであるが、其目錄は千七百八年乃至千七百六十二年の間に編成され、其後又千八百九年に多少の修正を加へて再版された。古文書目

録の編成に多大の年月を要する一二の實例として
見ることが出來やう。

私が大英博物館の寫本部で格別懇意にした *Lord*
Weyburn 氏の如きは二十年一日の如く同部の目録係と
して恪勤を續けて居る人である、と聞いた丈でも
其人物性格を偲ぶことが出來るであらう。氏は實
に溫厚篤實日夕黙々として其職務に勵精するの他
餘念がない。私は一日氏を博物館から程遠らぬ *レ*
ストラン に連れ出して午餐を供した事がある。時
刻が時刻とて、一時に客が込合つて注文品の手間
取る爲め出勤時刻に遅るゝことを氣遣ひ顔の氏は
遂に言ひにくさうに折角乍ら御馳走はもう澤山で
すから歸らして頂きたいと懇ろに辭退されたには
一入いぢらしく思つた。私は一つの標本として同
部の有名なコレクションの目録を買取らうとする
と、氏はそれを遮つて、夫等は何れも古い編成で
ある爲め今から見れば遺憾の點が多いから、目録

の標本としては寧ろ新刊のものがよからうと忠告
され、私も氏の選擇に任せて千九百十二年の出版
に係る大英博物館寫本増加目録（一九〇六一—一九
一〇）一冊を手に入れた。それには卷首に寫本部
長 *Gibson* 氏の長い序文がある。大體先づ古文書
の通し番號を擧げて次に文書名、文書の特質、年
代等が注されて居つて、寫本の外に *Chart* や
Roll や *Seal* や *Part* の原本及び模寫に至る迄の
目録も收められて居る。而かも最も調法なのは其
索引で、主として人名ではあるが、一部七百九十
四頁の過半を占めて居るのは追と領かれる。

カードは目録よりも一層簡單明瞭で、檢索の便
を眼目とせなければならぬものである。私の見た
古文書館で例へば *Barry* の *Archives Nationales* では
初めの行に人名とか地名とかを大きく書き、其下
に極めて簡單な説明（人なれば其身分）と日附とを
細書きし、それから離して末端に部門名と番號とを

載せる。一つのもので例へば條約の如きは、一つは條約名、一つは締結者といふやうに二つ以上、三つも四つも作つて、何れからでも引き出だせるやうに仕組まれて居り、Library of Congress では上部左端に番號と日附とを上下に細書し、次に差出人の名を大書して、極めて簡單に其身分を書添へ次の行に受取人の名と身分とを書く又下方右端に文書の性質を例へば自筆の書狀でサインがあるならば、A. I. S (autograph letter signed) といふが如き略符號で現し、次に其本文の頁數をも書加へ、それと相對した下方左端に其文書の發見された地名が載せられて居る。勿論これでも檢索の目的の達せられぬことはないが、私は其上に一行でも内容の見出しがあつたら一層便利であらうと思つた。

是等の見學は私に多大の裨益を與へたが、中に

は又相當疑問を抱かせたものもないではない。前に言及したこと以外に其一二と擧げるならば、古文書の形狀は古文書の研究に取つて最も重要な事項の一つであるが、其製本は往々古文書の原形を失はせる恐れがある。我國では古來古文書を卷物や帖に仕立てる習慣がある。紙背に文字のある場合には、特に其部分裏打を略したものもないではないけれども、多くは心なき表具師の手にかゝつて紙背の有用な文字の讀み下せぬ迄に紙の裏打をされる例である。矧して包み様とか折目とかはもとの姿を窺ふ由もないから私は原則として各種の古文書は皆本來の形狀を保存することゝして居り縦ひ既に原形を改めたものでも成るべく還元させる方針を取つて居る。Archives Nationales で始めて Langlois 氏に逢つた時、私は此事について氏の意見を叩いて見ると氏は言下に同感の意を表せられ、本館で古文書の冊になつて居るのはもと

からであつて、今ならば原形の儘古文書箱の中に保存するといはれたのには聊か心強く感じた。又古文書の原本の表面に番號を記入するはもとより古文書館の藏書印を捺すことも、古文書の様式を攪亂することになるから、私は常にこれを避ける爲めに紙背の目立たぬところに番號札を貼り藏書印を捺すことにして居る。私が Public Record Office の書庫を見學した時の事である。Jenkinson 氏に向つて此意見を述べると、快活な氏は亦腹藏なくこれに反對の意を表せられた。氏は從來古文書の保存法の誤つて居たことを忌憚なく非難さるゝに拘らず、斯様な方法に出づることは、原本に取つて格別の差障とならぬばかりか同館の文書の如く毎日多くの人々の閲覽に供せられ、又頻々と大英博物館其他に貸出の行はるゝものに取つては取扱上の錯誤を防ぐ爲めにも寧ろ必要であるといふのである。これは利用上の見地に立脚した説であつ

て私の保存上の立場と一致せぬのは餘儀ない次第である。今こゝには言明を憚るけれども、私自身もこれについては頗る苦い經驗を有つて居るのである。併し歐羅巴から亞米利加に渡つて Library of Congress の寫本部を訪問し其書庫を視察するに及んで、こゝの古文書が原本を其儘として部門や番號は其包紙に記入する方針であるのを見て私は會心の笑を禁め得なかつた。これを Langlois 氏の談話に思ひ合せると、古文書の原狀を其儘保存して些の攪亂を加へぬことが、古文書の保存は勿論、其管理上より視ても寧ろ最近の傾向であるといへやう。

又我等が古文書の管理上往々其處置に迷ふのは古文書と其關係圖書とを同所に置くべきや、圖書は取り離して別に置くべきやといふ事と、圖書の中に古文書の寫を多く含んだものを古文書として取扱ふべきや圖書として取扱ふべきやといふ事

ある。Langlois 館長は私の間に答へて、本館にも多少の圖書を藏するけれども、古文書とは決して一所に置かぬといつて、日本の舊家からよく世に出でる家傳の文書に祖先以來の系圖や家譜の一緒になつたものを、大學で購入した場合に、其古文書の宛名を始め内容の調査等にも一所に置いた方が便宜を感ずるといつた私の言葉を打消して、夫

等も無論別々に取扱ふべき性質のものであると言はれ、只貴問の如く多くの古文書を含む圖書を別々にするの結果は、それ等の圖書に古文書の含まれて居ることを忘れて古文書集を發行するに至ることである、本來は圖書に含まれた古文書は一々見易きやうに書き出して置くがよいのであるけれども、實際はさうも參らぬのが遺憾であると歎せられた。此點は私も至極同感であるが、前に擧げたやうな、頗る密接の關係ある圖書を便宜上古文書に附屬させて同所に置くことの可否については

ラ氏の純理論以外に私は所謂 *respect des fonds* の原則を擴充することに依つても猶ほ一考の餘地が充分あるやうに思ふ。